

平成29年度 過疎地域自立活性化
優良事例表彰



総務省地域力創造グループ過疎対策室

〒100-8926 東京都千代田区霞が関 2-1-2
TEL 03-5253-5536 FAX 03-5253-5537
http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/jichi_gyousei/c-gyousei/2001/kaso/kasomain0.htm

全国過疎地域自立促進連盟

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 1-13-5 第一天徳ビル3階
TEL 03-3580-3070 FAX 03-3580-3602
<http://www.kaso-net.or.jp/>

過疎地域自立活性化 優良事例表彰受賞団体



表彰受賞団体一覧



新潟県 十日町市

特定非営利活動法人 越後妻有里山協働機構

都市と地域の協働で行う、アートによる地域活性化
「『大地の芸術祭』の里」

岐阜県 郡上市

郡上市

住民主体による手づくり自治と産業の創出
～ハンドメイドの里「めいほう」をめざして～

徳島県 那賀町

丹生谷 清流座

人形浄瑠璃で地域に恩返し
～温故創新 伝統を受継ぎ新たな創造へ～

佐賀県 唐津市

唐津市相知町 蔊野集落

人がつながり、輝く地域
～棚田の魅力で交流促進～

鹿児島県 日置市

日置市高山地区公民館

地域資源と人材をフル活用
～全員参加で地域づくり～

福井県 池田町

池田町

木望のまちプロジェクト
～人と暮らしどり仕事が木でつながるまち育て～

愛知県 豊田市

一般社団法人 おいでん・さんそん

都市と山村が支え合う「暮らし満足都市」豊田市
～中間支援組織“おいでん・さんそんセンター”的取組～

愛媛県 西予市

四国西予ジオパーク推進協議会

リアル風景と音楽の融合

過疎地域自立活性化 優良事例表彰制度の概要

今日、多くの過疎地域では、全国に比して著しく人口減少や高齢化が進行しており、地域活力の低下や生活環境の整備に格差が見られるなど、依然厳しい状況にあります。しかし、近年、田園回帰の動きを始め、地域間交流の拡大、情報通信の発達、価値観の多様化等、過疎地域を取り巻く環境は大きく変化しています。

こうした中で、過疎地域は豊かな自然環境に恵まれた生活空間を提供するとともに、地域産業と地域文化の振興等を図り、個性豊かで自立的な地域社会を構築することにより、美しく風格ある国土の形成に寄与することが期待されています。

のことから、本制度は、過疎地域の自立促進に資するため、地域の自立と風格の醸成を目指し、創意工夫により過疎地域の活性化が図られている優良事例について表彰を行うものです。

平成29年度表彰委員会委員（敬称略）



委員長
みやぐち としみち
宮口 侗廸

早稲田大学
名誉教授



委員
ごと なおや
団司 直也

法政大学現代福祉学部
福祉コミュニケーション学科教授



委員
たに たかのり
谷 隆徳

（株）日本経済新聞社
論説委員兼編集委員



委員
にしやま みわ
西山 未真

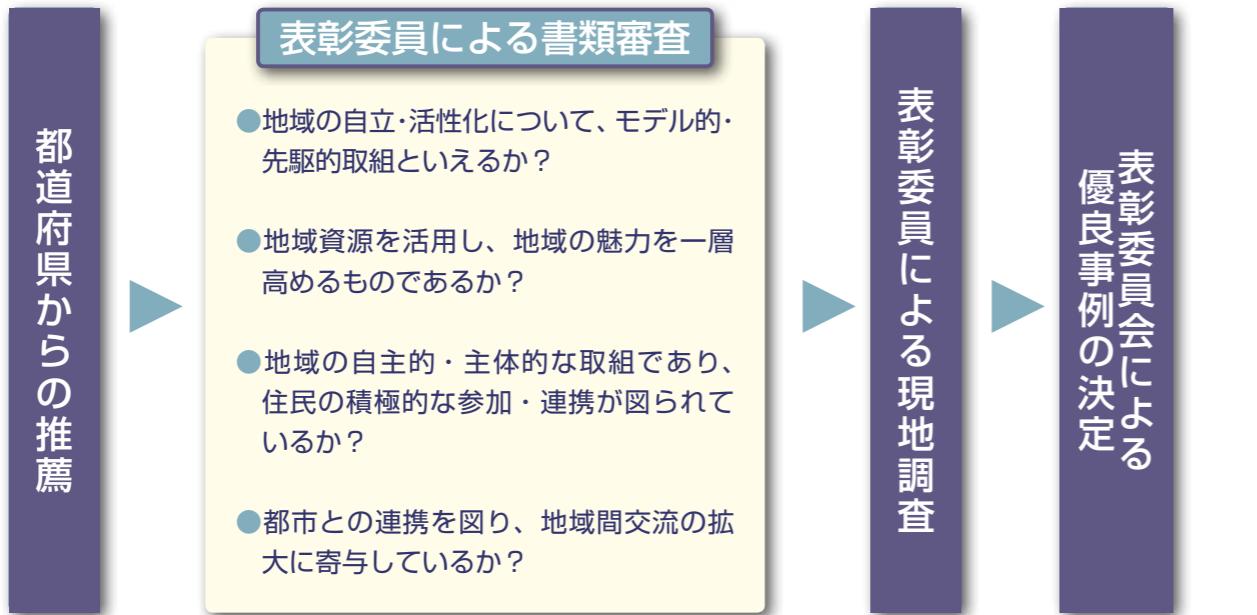
宇都宮大学農学部
農業経済学科准教授



委員
ひらお ゆき
平尾 由希

フードコーディネーター
元NHKキャスター

宮口 侗廸



日 時：平成 29 年 10 月 19 日（木）13 時 20 分
場 所：佐賀市文化会館大ホール
(全国過疎問題シンポジウム全体会会場)
佐賀県佐賀市日の出 1 丁目 21-10

委員長講評

この優良事例表彰は平成 2 年から始まり、今年度で 28 回目を迎えます。この間、表彰団体の意義ある活動から、多くの過疎地域の方々が刺激を受け、学ばれてきたことと存じます。今年度も、価値ある多くの取組みの中から、総務大臣賞 5 団体、過疎連盟会長賞 3 団体を選定させていただきました。

総務大臣賞の新潟県の NPO 法人越後妻有里山協働機構は、3 年ごとに開催される「大地の芸術祭」の作品や拠点施設の管理、空家・廃校舎・休耕田の活用などで地域内外の関係者の素晴らしい協働を実現し、その活動から過疎農村に新しい風格が生まれました。岐阜県郡上市の旧明宝村地区では、合併後に新しい活動団体が次々に誕生し、今や 20 を超える多彩な地域づくり団体や NPO が役割分担しながら、横の連携を密に地域を支えていますが、この動きを郡上市の政策が強く後押ししていることが大きく評価されました。農村舞台が最も多く残る徳島県那賀町で青年団を中心に結成された丹生谷 清流座は、町内各地の農村舞台での人形浄瑠璃の公演に加えて内外のイベントに出演、地元高校での人形浄瑠璃部の発足にも貢献するなど、伝統芸能の復興で地域が大きく盛り上がっています。佐賀県唐津市相知町の最上流部の蕨野集落は、初めて重要文化的景観に指定された棚田を交流の舞台とする活動と、評価の高い棚田米の販売などで、小集落でありながら、わが国の農村集落が本来的に有するパワーを強く世に示されました。鹿児島県日置市高山地区公民館は、合併後に旧小学校区で地区公民館が設定されたのを機に、自主的に自治

会を統合し、横の連携によるイベントの強化、住民全員参加の NPO の設立、買い物ツアーの実施など、複雑な地形を克服して高齢者の明るい暮らしを実現されました。集落ネットワーク圏のお手本とも言えます。

過疎連盟会長賞の福井県池田町は、わが国の大きな課題である森と木の活用のための実質的なプロジェクトを開発し、おもちゃハウス、冒険の森、ものづくりラボ、薪の駅、合宿施設などに、子どもたちを始め多くの人が訪れてています。愛知県豊田市の（一社）おいでん・さんそんは、合併後の豊田市が周辺の過疎・山村地域を支えるために設立した組織ですが、都市住民と山村をつなぐ場として、移住定住支援、研修・体験事業など、支え合う社会の構築に向けてすでに多くの成果が上がっています。愛媛県西予市の四国西予ジオパーク推進協議会は、科学的存在であるジオパークを音楽を聴きながら鑑賞してもらう斬新な発想で、多くの応募曲の中から 240 曲を選定、道の駅で iPod を貸し出すという、ユニークな試みが評価されました。

今年度の大賞には、長期にわたる活動の継続の中にさらなる発展的状況が見える団体が選ばれ、連盟会長賞には、比較的若いものの、時代の展開にふさわしい取組みが選ばれたと思います。特に豊田市の取組みは有数の都市が、周辺の山村の活性化に資する取り組みとして、さらなる成果を期待したいところです。そしてすべての取組みから、交流の価値が見えてきます。交流は過疎地域の発展に欠くべからざるキーワードであり続けているとあらためて感じました。

特定非営利活動法人 越後妻有里山協働機構

都市と地域の協働で行う、アートによる地域活性化
「『大地の芸術祭』の里」



「鉢＆田島征三・絵本と木の実の美術館」。越後妻有には廃校や空き家を再生・活用した作品施設がいくつもある。

事例の概要



雪国体験と郷土料理を楽しむ「雪見御膳ツアー」。参加者をもてなす地元のお母さん。

周囲を山に囲まれた日本有数の豪雪地である当地域は、他の中山間地域と同様に過疎・高齢化が著しく、空家や廃校が増えるなど、集落のコミュニティの活力の低下が大きな課題になっていた。

この課題に対し、地域の資源や魅力を再発見することから地域活性化の手懸かりを掴み、地域外の人々とともに協働することにより自立する地域を目指すため、里山を舞台とした国際展「大地の芸術祭」を開催した。これをきっかけに空家・廃校を活用・再生した美術館・レストラン・宿泊施設の運営や、担い手のいない棚田の保全活動、グッズ開発などに集落や地元企業とともに取り組むことで、地域の自立をめざした活動を行っている。アートプログラムや棚田保全活動を通して、都市と地域が協働することで、総合的に地域の魅力を高めている。

また、「『大地の芸術祭』の里」での地域づくりのあり方は、「妻有方式」として海外メディアでも多数紹介されるなど、国内外で美術の枠を越えた評価を得ている。国内では、文化芸術による創造都市が関心を呼ぶ中、徳島、茨城、新潟市、大阪、瀬戸内など全国のさまざまな地域づくりに影響を与えている。

評価のポイント

1年のうちの1/3以上が降積雪期間という全国有数の豪雪地帯である新潟県十日町市と、隣接する津南町の里山を舞台に、2000年より3年に一度開催される世界最大級の国際芸術祭「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」。この芸術祭に携わった方々の活動がきっかけとなり誕生した、特定非営利活動法人 越後妻有里山協働機構は、過疎化の結果生まれた空き家や廃校、保全の必要のある棚田などを活用し、地域に内在する様々な価値を、「アート」を媒体として掘り起こしと磨き上げを行い、国内外に発信し、その地を「『大地の芸術祭』の里」として地域再生の道筋を築くことを目標に活動している。

新潟県上越市出身のアートディレクターで、同機構の副理事長でもある北川フラム氏のディレクションの下、「人間は自然に内包される」を理念に、世界中の著名なアーティストが参加して地域住民や都市部からのボランティアなどとともに作り上げる現代アート作品は、圧倒的なビジュアル

ルとパワーを有しながら、山間の土地を切り開いて営まれる原風景に見事に溶け込み、地域にさらなる魅力を与えている。

前例のない独創的な取り組みは、同機構が主体となって時間をかけて丁寧に地域に寄り添うことで地域の理解と支持を得ながら広がりを見せ、数多くの作品と共に、地域住民のやりがい、生きがい、アイデンティティという地域資源を作り出した。アート、食、自然環境、観光、行政、地域住民、企業、レストラン、農村、都市、教育機関など、あるものすべてを連携させている点も素晴らしい、長期的な視野と全体を俯瞰してマネジメントする取り組みは「妻有方式」と呼ばれ、アートによる地域づくりの先進事例として国内外から注目されている。今後は、アートにとどまらず、食文化、スポーツ、農業など様々な視点で取り組みのさらなる広がりを図るという。同機構の持つ総合力で、さらなる進化に期待したい。



茅葺き民家のやきもの美術館「うぶすな家の」は、女衆のもてなしと地域食材を生かした手料理、現代陶芸家の器を味わえる、築約100年の大人気贅沢古民家レストラン。



壁や床、柱、梁など至るところを彫刻刀でひたすら掘った「脱皮する家」は、宿泊できるアート作品。すぐ近くにある「星峠の棚田」とともに、大人気のスポット。



棚田オーナー制度「まつだい棚田バンク」の稲刈りイベント。大地の芸術祭からつながるアーティストや来訪者、企業などが継続的に関わり、里山の象徴である棚田を守っている。

DATA 新潟県 十日町市 (とおかまちし)

団体名▶特定非営利活動法人越後妻有里山協働機構

所在地▶〒948-0003 新潟県十日町市本町6丁目越後妻有里山現代美術館[キナーレ]内

連絡先▶TEL:025-761-7749 FAX:025-761-7911

E-mail:info@tsumari-artfield.com

URL: http://www.echigo-tsumari.jp/

【交通のご案内】

自動車▶関越自動車道 六日町ICから約25分

関越自動車道 越後川口ICから約30分

北陸自動車道 上越ICから約70分

上信越自動車道 豊田飯山ICから約80分

鉄道▶上越新幹線越後湯沢駅からほくほく線十日町駅まで約40分、降車後徒歩10分

北陸新幹線上越妙高駅からほくほく線十日町駅まで約60分、降車後徒歩10分

北陸新幹線飯山駅からJR飯山線十日町駅まで約110分、降車後徒歩10分

飛行機▶新潟空港(バスで新潟駅へ)

上越新幹線新潟駅から上越新幹線越後湯沢駅まで約50分 → ほくほく線十日町駅、降車後徒歩10分



▶国勢調査人口 (単位:人)

市町村名	昭和35年	昭和55年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
十日町市	96,580	78,791	65,033	62,058	58,911	54,917

▶人口増減率 (単位: %)

市町村名	H27/S35	H27/S55	H27/H12	H27/H17	H27/H22
十日町市	-43.1	-30.3	-15.6	-11.5	-6.8

▶高齢者・若年者比率 (単位: %)

市町村名	高齢者比率	若年者比率
十日町市	36.0	11.4

総務大臣賞



(一社) 明宝ツーリズムネットワークセンターの取り組みである「冒険キッズ」にスタッフとして参加した学生の皆さん。自然体験型産業の確立を目指すとともに、学生が地域づくりに参画する仕組みづくりも進めています。

事例の概要



郷土の芸能（地歌舞伎）を若者の手で復活させた気良歌舞伎一座の公演。

郡上市明宝地域（旧明宝村）は、地域の面積の約94%を山林が占める典型的な山村地域である。平成16年3月1日に、旧郡上郡7町村が合併し、郡上市が誕生。明宝村は郡上市明宝地域となった。

合併後、長引く不況や合併のインパクトが重なり合って、地域に疲弊感が漂うようになってしまった。このような状況の中、明宝地域に「自らの力で地域を元気にしよう」と多くの地域づくり団体やNPO法人が生まれた。

明宝地域では、将来のめざす姿を「ハンドメイドの里（住民自治も特産品もすべて手作り）」とし、地域住民（民間）と行政が目的を共有しながら、分野を超えた組織間連携による地域活性化の取り組みを進めている。24の地域づくり団体が活発な活動を展開し、また、団体間の連携が新たな産業の創出につながる好循環を生み出している。

郡上市明宝振興事務所では、このような団体間連携の強化を進めるため、分野を超えた「多機能型組織連携」を目指した基本的な考え方を整理し、産業から福祉の分野まで多方面にわたる地域の課題の解決を積極的に支援している。

評価のポイント

郡上市明宝地域における地域づくりは、合併前の明宝村時代に端を発する。昭和から平成へと時代が移る中で、行政主導のもと観光開発や産業振興を担う第3セクターによる株式会社が設立され、過疎地域にあって若者が地元に帰って来られる雇用の場づくりに取り組んできた。

しかし、長引く平成不況や市町村合併もあって、地域に疲弊感が漂うようになっていた。その中で、有志による活動の先鞭となったのは、ソウルフードである鶏ちゃんを活用した地域の魅力発信を試み、2007年に設立された「めいほう鶏ちゃん研究会」である。

その後、合併前の地域づくりを経験した世代が、相次いで当時のスピリットを再び実践に繋ぎ、それに刺激された1ターンやリターンの若者たちも加わって、多彩な活動が展開していく。今では、地域の資源や文化を活かして、地域内外の交流から経済を生み出す「攻め」の部分から、暮らしを支える「守り」の部分まで、20を超える地域団体

やNPO法人が立ち上がっている。人口約1800人の明宝地域にあってこの地域活動の密度の濃さこそ、まず評価すべき点と言えよう。

その中から、住民同士を繋いだり、団体の活動をサポートする中間支援組織が地域内に立ち上がってきたことも大きな評価点であり、行政の明宝振興事務所とともに、住民に寄り添い、時に背中を後押しする心強い存在となっている。

郡上市としても、このような合併前の旧地域単位で取り組まれる手づくりの自治と産業の創出を尊重して、市全体での相乗効果に繋げたい意向を示している。

明宝地域の実践は、まずはチームシップで展開していくプロセスの大さを体現しており、これから各団体の連携をもとに、地域全体のビジョンづくりにも着手しようとしている。そこから生まれる「明宝スピリット」第2ステージの成果を大いに期待したい。



ふるさと柄尾里山俱楽部では、失われつつある集落の知恵の継承や里山の自然を守りついでいく活動を都市農村交流を軸にして展開している。



NPO法人ななしんぼが行っているMOSO（もうそう）塾。夢の共有と実践に向けた場づくりになっている。



明宝山里研究会が毎年行っているせせらぎ街道植樹祭。多くの都市住民が参加する交流事業として定着している。

DATA | 岐阜県 郡上市（ぐじょうし）

団体名▶郡上市

所在地▶〒501-4297 岐阜県郡上市八幡町島谷228番地

連絡先▶TEL:0575-67-1121(代表) FAX:0575-67-1711

E-mail:kikaku@city.gujo.lg.jp

URL: http://www.city.gujo.gifu.jp/

【交通のご案内】

自動車▶名神高速道路 一宮JCT→(東海北陸自動車道 52分)→郡上八幡IC
北陸自動車道 小矢部砺波JCT→(東海北陸自動車道1時間40分)→郡上八幡IC

鉄道▶名古屋駅→(JR特急ワイドビューひだ 40分)→美濃太田駅→
(長良川鉄道 1時間30分)→郡上八幡駅



▶国勢調査人口（単位：人）

市町村名	昭和35年	昭和55年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
郡上市	61,594	52,985	49,377	47,495	44,491	42,090
(旧)明宝村	3,722	2,486	2,114	2,023	1,850	1,670

▶人口増減率（単位：%）

市町村名	H27/S35	H27/S55	H27/H12	H27/H17	H27/H22
郡上市	-31.7	-20.6	-14.8	-11.4	-5.4
(旧)明宝村	-55.1	-32.8	-21.0	-17.4	-9.7

▶高齢者・若年者比率（H27年）（単位：%）

市町村名	高齢者比率	若年者比率
郡上市	34.7	9.9
(旧)明宝村	37.4	10.1

丹生谷 清流座

総務大臣賞

人形淨瑠璃で地域に恩返し
～温故創新 伝統を受継ぎ新たな創造へ～



青年団が中心となり人形淨瑠璃座を結成。伝統芸能の継承、農村舞台など地域資産を活用した事業を行い、地域の活性化に寄与する。

事例の概要



農村舞台公演での出演前の丹生谷清流座のみなさん。

山間地域にある那賀町では、過疎・高齢化が進み、産業はもとよりさまざまな伝統文化活動においても後継者不足が深刻な状況であった。

そのような中、町内に残る人形淨瑠璃用の農村舞台が全国一多いこと、町内に唯一存在する人形座が高齢化により存続が危ぶまれている現状を知り、地元青年団が中心となり人形淨瑠璃座「丹生谷清流座」を結成した。人形淨瑠璃を通して、伝統芸能の継承のみならず、農村舞台をはじめとする地域が守ってきた歴史的文化資源に新たな価値を見出し、地元住民と連携し活用することで、地域の魅力を高め、交流人口の増加に寄与している。

人形淨瑠璃公演を農村舞台で行う最大の効果は、公演の開催に際し、地域住民が行政や県内外の人形座、芸術家などと連携・協力し、これまで使われていなかった農村舞台を復活させる過程において、地域コミュニティの再生につながっていることが挙げられる。

現在では、県や町などの行政機関とも連携し、農村舞台の新たな可能性を求める、人形淨瑠璃のみならず、音楽イベントや杜の中のレストランとしての活用など、新たな可能性を追求している。

評価のポイント

徳島県には氏神を祭る神社の境内に設けられた「農村舞台」が今も各地に存在している。多くは明治時代に建てられ、集落の住民の娯楽の場として人形淨瑠璃などが演じられてきた。徳島県那賀町はその農村舞台が最も現存している地域で、約40棟に上る。

一方で、肝心の人形淨瑠璃の人形遣いは高齢化しており、存続が危ぶまれていた。その中で、町の青年団が中心となって2009年に設立したのが「丹生谷 清流座」である。現在14人の座員があり、仕事や家事などと両立させながら月2回程度、プロの指導も受けながら練習を続け、演目を増やしている。

清流座は現在、農村舞台で年6回程度の公演を開催しているほか、徳島交響楽団との共演や福祉施設への訪問など様々なイベントに参加している。その結果、地元で唯一の高校である那賀高校に人形淨瑠璃部が発足し、16年度の卒業生のなかから2人が清流座に加入した。フェイスブッ

クを通じて練習風景や公演の模様を発信し、新たなファンづくりにも努めている。

清流座は徳島の伝統芸能である人形淨瑠璃の継承に貢献しているだけない。新たな担い手集団の活躍に触発され、神社の氏子の寄付で老朽化した農村舞台を改築する動きが広がっている。使われていなかった農村舞台の「復活」の過程はまさに、地域コミュニティの再生と呼べるだろう。

農村舞台での公演は基本的に無料で行っていることもあり、活動費の多くを県や町の補助金に頼っている点は課題といえるものの、丹生谷 清流座の存在は地域の伝統的な資源に焦点を当てることで、住民を巻き込みながら集落を活性化させている好例といえるだろう。杉やケヤキに囲まれ、神々しい雰囲気も漂う農村舞台の維持活用は日本の伝統的な村落共同体の歴史を語り継いでいくうえでも重要なだけに、今後の一層の活躍を期待したい。



教育機関等と連携してワークショップを行うなど、淨瑠璃に触れ合う機会を創出し積極的に継続的に後継者育成に努めている。



徳島交響楽団と共に、従来の太夫・三味線による伴奏をクラシックの演奏に置換え人形淨瑠璃を行った。異色の組み合わせに、クラシックファンからも好評をいただいた。



農村舞台公演時には、地元住民の方々が特産品や農産物、飲料などを販売し出演者と一体となって公演を盛り上げている。

DATA | 徳島県 那賀町 (なかちょう)

団体名▶丹生谷 清流座
所在地▶〒771-5406 徳島県那賀郡那賀町延野字王子原31-1
連絡先▶TEL:0884-62-0382
E-mail:seiryuza@gmail.com

【交通のご案内】

自動車▶徳島ICから国道55号線・195号線で約1時間30分
鉄道▶JR牟岐線桑野駅、桑野駅から徳島バス乗車
延野で下車すぐ
飛行機▶徳島阿波おどり空港から車で約1時間45分



▶国勢調査人口 (単位:人)

市町村名	昭和35年	昭和55年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
那賀町	23,279	14,360	11,893	10,695	9,318	8,402

▶人口増減率 (単位: %)

市町村名	H27/S35	H27/S55	H27/H12	H27/H17	H27/H22
那賀町	-63.9	-41.5	-29.4	-21.4	-9.8

▶高齢者・若年者比率 (単位: %)

市町村名	高齢者比率	若年者比率
那賀町	46.9	7.1

唐津市相知町 蕨野集落

総務大臣賞

人がつながり、輝く地域
～棚田の魅力で交流促進～

早苗の時期に、棚田の約7kmを巡るウォークを集落ぐるみで17年前から毎年6月に開催。参加者が棚田の魅力を感じて棚田ファンとなり、交流が促進されている。

事例の概要



蕨野棚田直売所では、交流イベントの際に棚田米蕨野のほか、地元の新鮮野菜が販売される。

蕨野集落では、農家の高齢化や農産物の価格低迷等により耕作放棄地が増加している。しかし、先人達が苦労を重ねて残してくれた集落の宝「蕨野の棚田」を活かした地域づくりを進めようとの思いから、地域住民の団結力で集落ぐるみでの取り組みが生まれた。

具体的には、日本の棚田百選や重要文化的景観に選定された「蕨野の棚田」を活かした地域づくりを進めるため、棚田の美しい景観を体感してもらう「早苗と棚田ウォーク」など生産者と消費者の顔の見える交流イベントの開催や、集落と大学や企業ボランティア、NPO法人「蕨野の棚田を守ろう会」が連携し、田植えや稻刈り体験、草刈りや用水路の清掃を実施するなど耕作放棄地の解消と棚田と里山の保全に取り組んでいる。

また、蕨野棚田保存会では、棚田米のブランド力の向上や稼げる仕組みづくりが確立されるなど、集落ぐるみの取り組みにより集落の魅力向上及び活性化が図られている。

さらに、集落内において住民による「そば処」や「農家民泊」の開設にもつながるなど、棚田の魅力を伝える交流事業を住民の力で定着させてきたことによって、地域住民が地域に誇りを持つ意識の高まりを生んでいる。

評価のポイント

蕨野集落は、唐津市に合併した旧相知町（一部過疎）の南端の最上流集落であり、65世帯のうち農家は42戸、後述の棚田保存会は23戸からなる。この集落の上部にある棚田は、美しい石垣とその暗渠などの技術的価値から、棚田としては初めて国の重要文化的景観に選定されており、一小集落の棚田としては比類ないものと言える。

平成13年に当時の町長が棚田の価値を提唱し、蕨野棚田保存会と、イベントの事業主体としての「棚田と菜の花実行委員会」が設立された。棚田米はすでに九州で高い評価を受けていたが、平成18年に市が造成した交流広場に、蕨野区（集落）が蕨野棚田直売所を開設した。21年には、さまざまな連携活動の主体となるNPO法人「蕨野の棚田を守ろう会」が設立され、その年から交流広場で、NPO主催による「ふるさとの灯りコンサート」が夜なべ談義付きで開催されたが、これには佐賀大学からの支援があった。

最上流部の集落で先人が残した棚田の価値を發揮させよう、小さな集落が旧来の体制の上に17年にわたって多くの交流イベントを開催してきたことは、地域への極めて強い愛着を物語る。一種の経済組織である棚田保存会や後発のNPOも、蕨野区という集落に包含される形の中で、一体的に活動してきた。その中でも棚田保存会は農協との関係を維持しながら、棚田米の評価を高めて地区内の経済循環をつくり出し、地区の体制を支えていると考えられる。この一体感が、交流事業における住民の参加意欲を保持し、大学生との交流を始め、イベントにおける多くのリピーターの確保のもとになっていると考えられる。その意味で、古来集落を拠りどころとして暮らしがつくってきたわが国の農山村の、諸外国には見られない価値が、棚田を拠りどころとして、揺るぎなく持続している事例と、高く評価することができる。



大学、企業、ボランティア等の協力により草刈り、田植え、稻刈り等を行うことで棚田と里山の保全活動に取り組んでいる。



稻刈りが終わった棚田を会場に毎年10月に観月会と、フルート等の演奏を楽しむ「ふるさとの灯りコンサート」が開催される。



生活雑排水の入らない八幡岳からの清らかな水が育んだ「棚田米蕨野」。蕨野棚田保存会がブランド化して販売している。

DATA | 佐賀県 唐津市（からつし）

団体名▶唐津市相知町 蕨野集落
所在地▶〒849-3203 佐賀県唐津市相知町平山上甲1332番地
連絡先▶TEL:0955-62-3788

【交通のご案内】

自動車▶蕨野集落までは、
長崎自動車道 多久I.C.から国道203号経由約20分
福岡市 国道202号約70分
佐賀市 国道203号約60分
鉄道▶JR相知駅までは、
JR博多駅 筑肥線・唐津線約90分
JR佐賀駅 唐津線約50分



▶国勢調査人口（単位：人）

市町村名	昭和35年	昭和55年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
唐津市	173,866	142,224	134,144	131,116	126,926	122,785
(旧)相知町	16,524	10,492	8,853	8,836	8,240	7,646

▶人口増減率（単位：%）

市町村名	H27/S35	H27/S55	H27/H12	H27/H17	H27/H22
唐津市	-29.4	-13.7	-8.5	-6.4	-3.3
(旧)相知町	-53.7	-27.1	-13.6	-13.5	-7.2

▶高齢者・若年者比率（H27年）（単位：%）

市町村名	高齢者比率	若年者比率
唐津市	29.2	13.0
(旧)相知町	35.9	10.6

総務大臣賞



高山ふるさと秋まつりは、集落ごとに、豊かな地域資源を活かした手づくり体験等を実施。都市住民との交流を通して農村集落の活性化に繋がっている。
(野下集落・かずら工房)

事例の概要



尾木場の山菜狩りでは都市住民が家族で参加。多くの高山地区ファンを生み出している。

地域資源と人材をフル活用
～全員参加で地域づくり～

評価のポイント

4町が合併して誕生した日置市では、平成18年から各小学校区単位に地域づくりの拠点として地区公民館を設置することを決め、19年4月に旧高山小学校区（小学校は平成4年閉校）6集落をまとめて、高山地区公民館が発足した。さらに、市の交付金で購入したワゴン型公用車の活用をきっかけに、25年6月に、住民全員が会員となる「NPO法人がんばろう高山」を設立、活動の中心となっている。

NPO法人設立後は、「高山再生プロジェクト会議」を設置、住民アンケート、アドバイザーを交えたワークショップ、視察研修等で一致団結の機運を高め、移動販売車への燃料費補助、公用車による高齢者の買い物ツアー（週1）、農家からの少量の農産物の直売センターへの出荷など、人とモノの輸送体制が確立された。

6集落の協働は、すでに閉校舎を交流センターとして整備した20年前に始まったと考えられるが、これは、他人

を迎えるための話し合いが新しい協働を生みやすいたことを示す。高山地区では、それまでの集落間協働の下地の上に、2年の議論を経て、統合自治会の確立、さらにそれを支える実働部隊であるNPO法人の設立へと、すばらしい展開が生まれた。

農産物の出荷や買い物ツアーからの帰着の場面では、明るい応対が印象的であり、幅広い交流ときちんとした話し合いが、高齢の住民を成長させていると理解できた。山間の過疎地域としては稀なことと高く評価したい。イベントの世話や運転の日当、農家の出荷額等は少額とはいえ、明確なルールのもとにお金が循環する仕組みが確立していることも、地域の明るさを増していることと思われる。今後農産物の出荷での手数料の設定、空き家の直売所・カフェの開設を予定し、小さいながらも6次産業化を目指していることもすなおに期待できる。



高齢者の多くは、自家野菜を作っているが、消費しきれずにいた。地区全体で集荷、出荷することにより、現金収入も増え、生きがいづくりと出荷者支援に繋がっている。



棚田の用水路では在来種のクロメダカが生息している。メダカを育むきれいな水で育つ米作りを通して、都市住民の農業・農村への理解と残すべき農村の次世代への継承の意識を生みだしている。



地区住民全員加入によるNPO法人「がんばろう高山」の移動車両により、街中への買い物や温泉ツアー等を実施。地元のおばちゃんたちもイキイキ元気。

DATA | 鹿児島県 日置市 (ひおきし)

団体名▶日置市高山地区公民館

所在地▶〒899-2311 鹿児島県日置市東市来町養母15819-4

連絡先▶TEL:099-274-9856 FAX:099-274-9856

E-mail:takayama-com@city.hioki.kagoshima.jp

【交通のご案内】

自動車▶南九州自動車道伊集院インターチェンジより約30分

鉄道▶JR東市来駅から約20分

飛行機▶鹿児島空港から車で約1時間



▶国勢調査人口（単位：人）

市町村名	昭和35年	昭和55年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
日置市	67,756	52,022	53,391	52,411	50,822	49,249
(旧)東市来町	19,056	15,047	13,623	13,082	12,492	11,704

▶人口増減率（単位：%）

市町村名	H27/S35	H27/S55	H27/H12	H27/H17	H27/H22
日置市	-27.3	-5.3	-7.8	-6.0	-3.1
(旧)東市来町	-38.6	-22.2	-14.1	-10.5	-6.3

▶高齢者・若年者比率（H27年）（単位：%）

市町村名	高齢者比率	若年者比率
日置市	31.9	12.4
(旧)東市来町	37.3	10.6

全国過疎地域
自立促進連盟
会長賞

木望のまちプロジェクト

～人と暮らしと仕事が木でつながるまち育て～



おもちゃハウスこどもと木：木とのふれあいを通して、子どもたちが森や自然の魅力や豊かさを感じて感性を育む木育施設。木のおもちゃで親子と一緒に遊ぶ事で豊かな家族の時間を過ごすことができる。

事例の概要



池田小学校の児童は薪割り体験を通して池田町の人々の暮らしの知恵や技を学んでいる。

池田町ではこれまで、自然や風土、農林産物を活かした個性のあるまちづくりに取り組んできた。しかし近年では、観光誘客力の伸び悩みや人口減少・若者流出の傾向が顕著となっていた。

このような状況の中で、当町がこれからも存続し、穏やかで心豊かに暮らせる「あたりまえがふつうにある町」であり続けるために、町の最大限の資源である木を使ったまちづくり「木望のまちプロジェクト」をスタートした。

町の約92%を占める森林を活用し、木のぬくもりで子どもたちを育み、家族や地域の人と人が木や森を守り活かすことでつながり、絆を生み出す仕組みの構築を目指している。町内各所の交流拠点施設では、森林資源を活かした地域循環型経済の創出、若者の雇用促進、移住・定住人口および都市農村交流人口の拡大により、農山村の力を活かした地方創生につなげている。

今後は、整備された施設を活用し、町内施設との連携、まちぐるみの協力体制をさらに強化するとともに、スタッフの木や森を伝え育てるスキルをさらに広げ、深め、観光の産業化を進めていく。

評価のポイント

これまで池田町では有機農業を核とした取り組みから、有機農産物の認証・販売や生ゴミの堆肥化などのシステムを作ってきた。しかし、町の特徴でもある豊富な森林資源（町の92%を森林が占めている）が手つかずだったことに着目し、森林資源を活用するプロジェクトを展開。森林所有者の理解を得ながら、木材の地産地消や木に親しむライフスタイルや価値観の普及などに取り組んでいる。

これまでの有機農業や生ゴミの堆肥化などの取り組みは、住民主導や住民参加のスタイルを町全体に定着させてきた。そうした実績が、現在の「木望のまちプロジェクト」への地域住民の主体的な関わりに結びついている。

また、地域住民の満足度を高める視点から、どのように森林資源の活用をしていくのかを追求している点が評価できる。具体的には、学校で使用する木の机・椅子のプレゼントや製材、薪割りなどの体験プロジェクトなどを通して、

木材の産地であるからこそ、その豊かさを実感できる取り組みとそのネットワーク化を図っている点である。

また、活動のコンセプトや活動自体をはじめるきっかけは、町長や行政主導であることが多いが、その後の活動は、住民による主体的な取り組みとして継続性が保たれている。また、規模の小ささを活かしたビジネスやビジネスにつながるネットワークが生まれている点も評価できる。具体的には、地元産木材を地元の業者が製材し、別の団体が木材の切り出しと薪割り、販売を行っているなどである。

また、廃校になった小学校を可能な限り内装を木質化し、滞在型宿泊体験施設として再整備するなど、既存の施設に対するソフト面、ハード面両方でのこ入れにより、施設の活用が進み、それによる地域資源磨きの効果もみられている。



農村 de 合宿キャンプセンター：「農村がキャンバス！ 風土が教科書！」をコンセプトに、農村文化に触れながら自然の中で学ぶ楽しさを体感する木のぬくもりあふれる都市農村交流施設。



まちの駅こってコテいけだ：池田町の人、モノ、想いあふれる交流交差店。木の椅子やテーブルを配した外の広場には住民が週末に出店できるいけだマルシェがある。



ツリーピクニック アドベンチャー いけだ：森と遊び、木に学ぶ事ができる日本最大級の木の冒険の森。こどももおとなも一緒に、山との出会い、木に学ぶことの楽しさを味わえる木活施設。

DATA | 福井県 池田町 (いけだちょう)

団体名▶池田町

所在地▶〒910-2512 福井県今立郡池田町稻荷35-4

連絡先▶TEL:0778-44-6000(代) FAX:0778-44-6296

E-mail:soumu@town.ikeda.fukui.jp

URL:<https://www.town.ikeda.fukui.jp/>

【交通のご案内】

自動車▶北陸自動車道 福井ICより約40分

北陸自動車道 鮎江ICより約30分

北陸自動車道 武生ICより約30分

鉄道▶特急サンダーバードで大阪より武生まで約1時間45分

特急しらさぎで名古屋より武生まで約1時間50分

特急しらさぎで米原より武生まで約55分

特急サンダーバード・しらさぎで金沢より福井まで約45分

北陸本線武生駅より福鉄バス池田線で約1時間

北陸本線福井駅より京福バス56系統池田線で約1時間



▶国勢調査人口（単位：人）

市町村名	昭和35年	昭和55年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
池田町	7,657	4,510	3,759	3,405	3,046	2,638

▶人口増減率（単位：%）

市町村名	H27/S35	H27/S55	H27/H12	H27/H17	H27/H22
池田町	-65.5	-41.5	-29.8	-22.5	-13.4

▶高齢者・若年者比率（H27年）（単位：%）

市町村名	高齢者比率	若年者比率
池田町	43.2	11.6

一般社団法人 おいでん・さんそん



都市部の小学生が親元を離れて山村の暮らしを体験する「セカンドスクール」を春休み、夏休みを中心に開催、延べ200名の児童が参加する。

事例の概要



山村部での精神障がい者就労支援施設「畦道」の起業を支援。代表の今枝さん(右)、副代表の鈴木さん(左)。

豊田市は、平成の合併により過疎地域を含む広大な都市となった。集中的な過疎対策にも関わらず人口減少に歯止めがかからないことから、2013年8月、都市と山村が共存するまちだからこそ可能な、都市と山村の支え合いをコーディネートする中間支援組織「おいでん・さんそんセンター」を設立した。そこをプラットフォームとして住民、企業、団体、NPO、研究者などが集い、専門性を生かしながら市民主導の取組みを迅速、柔軟に展開している。

都市と山村をつなぐ支援として、耕作放棄地に悩む山村部の集落と農業を通じた若手社員の人材育成を狙う都市部企業のコーディネートを始めとする企業と山村地域のマッチング支援、研修・体験・CSR事業のコーディネート、山村でのソーシャルビジネスへの助言等を実施している。また、移住定住を総合的に支援するいなか暮らし総合窓口も開設している。

このような都市と山村を「つなぐ」中間支援は、低コストで、都市と山村双方の課題を同時に解決し、過疎の問題を山村固有の問題とせず、都市住民と共に解決する仕組みづくりに工夫を凝らしている。

評価のポイント

広域合併により都市部と過疎山村を含む新豊田市が誕生した後も、過疎地域の人口減少に歯止めがかからないことから、この地域ならではの、都市と山村が共存できる、支え合いをコーディネートする目的で「おいでん・さんそんセンター」が設立された。主な活動は3つあり、①山村の資源である、農地、山林、農家の技術などと都市住民や企業やI・Uターン希望者などを結ぶコーディネート事業、②田舎暮らし総合窓口として、移住者受け入れのための空き屋活用プロジェクト、③支え合い社会に向けた調査、研究とその広報活動である。

コーディネート事業の実績は、平成25年以降137件あり、多様な人と資源を結ぶ、事例の多様性が見受けられる。例えば、精神障がい者福祉施設「畦道」の設立において、家主と地域住民との橋渡しなど後見人の役割を果たしたり、また、耕作放棄地を都市部の会社の研修で使用して

もらえるよう、伊熊営農クラブと企業の仲介を行ったりした。

自治体による仕事は管轄地域限定だが、おいでん・さんそんセンターでは、生活の実態に即した生活圏という広がりを重視している。それによって、人と資源の結びつきが次々に生まれている。こうした結びつきは、くらしの満足度を高め、I・Uターンの連鎖反応を生み、小学校の生徒数を小学生以下の児童数が上回る異変（！）が起きている。

また、地域住民とI・Uターンの連携で小さな経済が動き出している。そのことに主体的に関わる住民による満足度は高く、地域で暮らすことへの誇りすら感じられる。それゆえ、都市との関係も、利害関係を超えた、山村での様々な活動を共に行う同志的な関係が結ばれています。



都市部企業と農地の荒廃に悩む山村の集落農組合をマッチング。遊休農地を活用した企業ファームで若手社員が育ち、山村にも活気をもたらす。



I・Uターン者の暮らしぶりや空き家物件の内覧を行う「暮らしの参観日」を随時開催。いなか暮らし総合窓口として、3年間で80世帯、207人の空き家への移住をサポート。



都市部生協の社会貢献を兼ねた組合員サービスの収穫体験事業を高齢化で離農が進む山村に誘致。収穫にかかる労力の軽減などで高齢者が元気に。写真はトウモロコシ収穫体験。

DATA | 愛知県 豊田市 (とよたし)

団体名▶一般社団法人おいでん・さんそん

所在地▶〒444-2424 豊田市足助町宮ノ後26-2(足助支所2階)

連絡先▶TEL:0565-62-0610 FAX:0565-62-0614

E-mail:sanson-center@city.toyota.aichi.jp

URL:<http://www.oiden-sanson.com/>

【交通のご案内】

自動車▶東海環状自動車道 豊田勘八IC 約15分
東海環状自動車道 豊田松平IC 約15分
猿投グリーンロード力石IC 約15分

鉄道▶浄水駅(名鉄豊田線)→とよおいでんバスさなげ足助線(百年草行) 約60分
四郷駅(愛知環状鉄道)→とよおいでんバスさなげ足助線(百年草行) 約50分
豊田市駅(名鉄三河線)→名鉄バス矢並線(足助行) 約45分

飛行機▶中部国際空港(セントレア)から鉄道または空港バスで約1時間

▶国勢調査人口 (単位:人)

市町村名	昭和35年	昭和55年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
豊田市	46,822	281,608	351,101	412,141	421,487	422,542
(旧)足助町	15,704	11,031	9,852	9,263	8,627	7,892

▶人口増減率 (単位: %)

市町村名	H27/S35	H27/S55	H27/H12	H27/H17	H27/H22
豊田市	802.4	50.0	20.3	2.5	0.3
(旧)足助町	-49.7	-28.5	-19.9	-14.8	-8.5

▶高齢者・若年者比率 (H27年) (単位: %)

市町村名	高齢者比率	若年者比率
豊田市	20.8	18.3
(旧)足助町	37.9	11.1



しこくせいや
四国西予ジオパーク推進協議会

リアル風景と音楽の融合



四国西予ジオパークの見どころのひとつ約4億年前の縦じまの地層が広がる須崎海岸。ガイドが案内する際のBGMとしてジオミュージックを使用。

事例の概要



ジオミュージックを制作したコンテスト受賞者と審査委員の皆さん。

「四国西予ジオパーク」では、海拔0mから1,400mの標高差の中に、古生代から新生代までの様々な地層や、リアス海岸・盆地・河成段丘・カルスト台地などの多様な地形が存在する。

これらの風景に雰囲気を盛り上げるBGMが加われば、より一層素晴らしい風景になるはずとの思いから、人々の営みや文化、生態系、地形、地質と地球との関わりを体感できる「四国西予ジオパーク」と音楽の融合を目的として四国西予ジオミュージックプロジェクトを開始した。地域の魅力を表現した楽曲や映像作品を募集したコンテストの開催や市内最大の集客施設である道の駅どんぶり館では、観光客向けにジオミュージックを収録したオーディオプレイヤーの貸出を行い、交流人口の拡大と地域活性化に取り組んでいる。

今後は、ジオミュージックや動画コンテストで集まった動画作品などの質の高いコンテンツをプロモーション活動へ活かすべく、各地のデジタルサイネージを利用したPRやプロジェクトマッピングへの応用などが考えられ、コンテンツの活用については大いなる発展性が期待されている。

評価のポイント

現在、日本には地球活動に伴う地層や地形などを保護し、観光や教育にも生かす「ジオパーク」が全国43地域にある。そのジオパークの魅力を高めようと、カルスト台地や海岸など市内の見所ごとに、それにふさわしい音楽をつけて観光客や市民に楽しんでもらおうというのが、西予市が始めた「ジオミュージックプロジェクト」だ。

音楽共有サービスの運営事業者などと連携して楽曲を募集したところ、2年間で3800曲も集まり、そのなかから240曲を選定した。楽曲は、それを収録したiPodを道の駅で貸し出して幅広く提供しているほか、学校や図書館などでもBGMとして流している。RPGゲームを音楽が盛り上げているように、ジオパークというリアルの風景と音楽を融合させようという試みである。

5つの町が2004年に合併して誕生した西予市は、市の全体がジオパークに指定されており、そのことが旧5町の壁を越えて市の一体感を醸成する効果を生んでいる。作

曲する過程で様々なアマチュアミュージシャンが西予市を訪れて市民と交流するなど今回のプロジェクトは市の活性化にもつながっている。ジオミュージックを生かした動画コンテストも開催し、西予市を舞台とする映画をつくることも検討中だ。

人口4万人弱の自治体が短い期間に、様々な音楽関係者を巻き込んで大がかりなプロジェクトを推進した点は評価に値する。一般的に面白みがないといわれるジオパークの付加価値を高めようという試みも面白い。自然の風景と音楽の融合は、海外からも観光客を呼び込む可能性を秘めている。

ただし、プロジェクトが始まってわずかということもあって、ジオミュージックを収録したiPodの貸出件数は年間200人程度にとどまっている。今後、観光振興に寄与し、市民の参加が広がる展開を期待したい。



左写真：現地で音楽を楽しむというコンセプトアート／右写真：全てのジオミュージックを収録したオーディオプレイヤーを道の駅どんぶり館で貸出中。



現地の雰囲気を生で感じて楽曲制作に活かしてもらうため、ジオミュージック制作者を対象としたツアーを実施。ツアーを通じて良質な楽曲が数多く誕生した。



市内小学生が現地で行うジオパーク学習にガイドが同行。子どもたちからはお気に入りのジオミュージックのリクエストがあがる。



DATA | 愛媛県 西予市 (せいよし)

団体名▶四国西予ジオパーク推進協議会

所在地▶〒797-8501 愛媛県西予市宇和町卯之町三丁目434番地1

連絡先▶TEL:0894-62-6403 FAX:0894-62-6574

E-mail:machidukuri@city.seiyo.ehime.jp

URL:<http://seiyo-geo.jp/>

【交通のご案内】

自動車▶松山自動車道 松山ICから西予宇和ICまで約1時間/西予宇和ICから約5分
大分(別府港)から八幡浜港まで約2時間50分/八幡浜港から車で約30分

鉄道▶JR予讃線特急列車を利用
JR松山駅からJR卯之町駅まで約1時間/卯之町駅から徒歩1分

▶国勢調査人口 (単位:人)

市町村名	昭和35年	昭和55年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
西予市	79,525	56,175	47,217	44,948	42,080	38,919

▶人口増減率 (単位: %)

市町村名	H27/S35	H27/S55	H27/H12	H27/H17	H27/H22
西予市	-51.1	-30.7	-17.6	-13.4	-7.5

▶高齢者・若年者比率 (H27年) (単位: %)

市町村名	高齢者比率	若年者比率
西予市	40.8	8.5

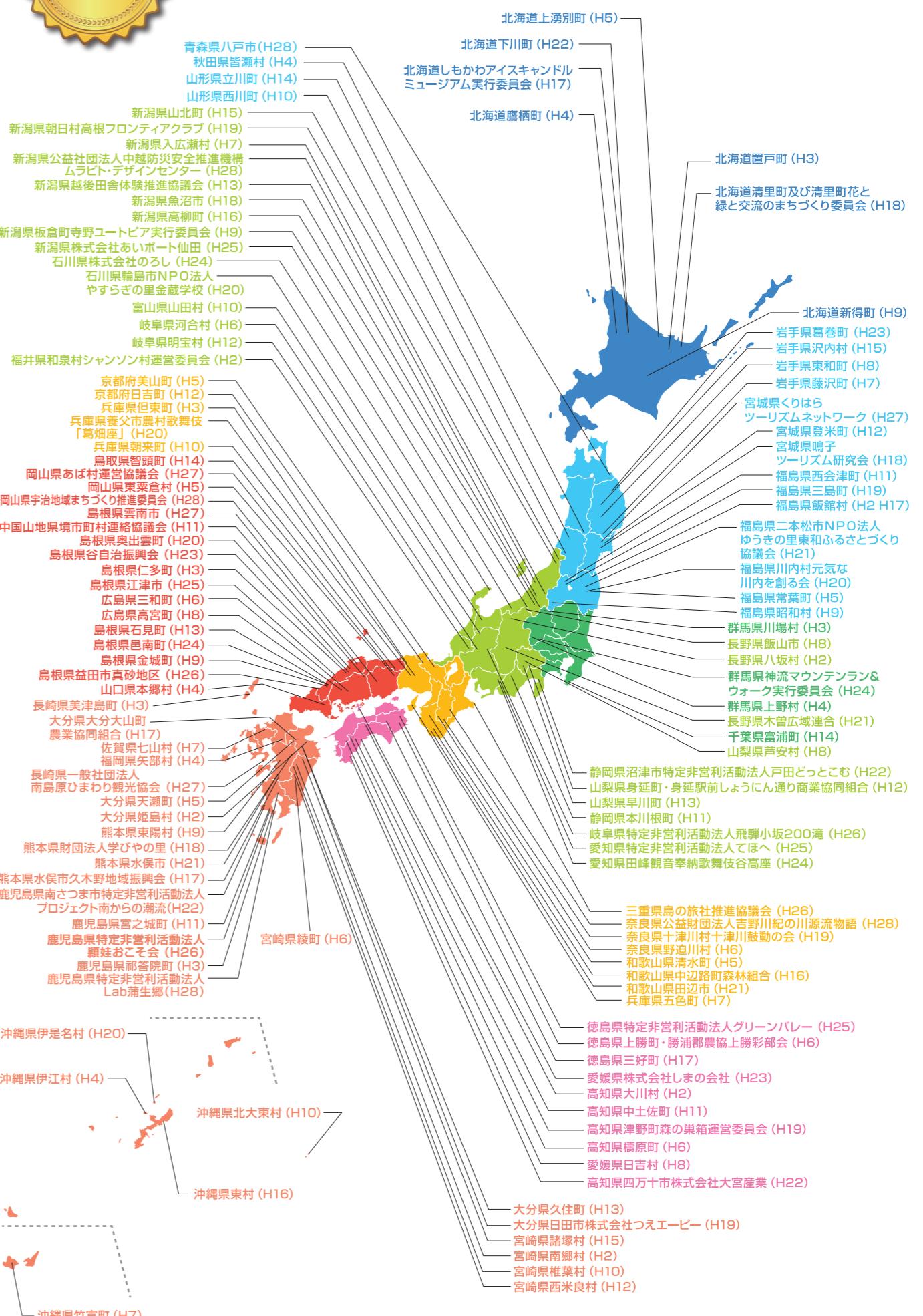


平成2~28年度 過疎地域自立活性化優良事例表彰

総務大臣賞 受賞団体一覧

年度	都道府県	団体名	市町村等名
平成2年度	福島県	飯館村	
	福井県	和泉村シャンソン村運営委員会	和泉村
	長野県	八坂村	
	高知県	大川村	
	大分県	姫島村	
	宮崎県	南郷村	
平成3年度	北海道	置戸町	
	群馬県	川場村	
	兵庫県	但東町	
	島根県	仁多町	
	長崎県	美津島町	
	鹿児島県	祁答院町	
平成4年度	北海道	鷹栖町	
	秋田県	皆瀬村	
	群馬県	上野村	
	山口県	本郷村	
	福岡県	矢部村	
	沖縄県	伊江村	
平成5年度	北海道	上湧別町	
	福島県	常葉町	
	京都府	美山町	
	和歌山県	清水町	
	岡山県	東粟倉村	
	大分県	天瀬町	
平成6年度	岐阜県	河合村	
	奈良県	野迫川村	
	広島県	三和町	
	徳島県	上勝町・勝浦郡農協上勝部会	
	高知県	梼原町	
	宮崎県	綾町	
平成7年度	岩手県	藤沢町	
	新潟県	入広瀬村	
	兵庫県	五色町	
	佐賀県	七山村	
	沖縄県	竹富町	
平成8年度	岩手県	東和町	
	山梨県	芦安村	
	長野県	飯山市	
	広島県	高宮町	
	愛媛県	日吉村	
平成9年度	北海道	新得町	
	福島県	昭和村	
	新潟県	板倉町寺野ユートピア実行委員会	板倉町
	島根県	金城町	
	熊本県	東陽村	
平成10年度	山形県	西川町	
	富山県	山田村	
	兵庫県	朝来町	
	宮崎県	椎葉村	
	沖縄県	北大東村	
平成11年度	福島県	西会津町	
	静岡県	本川根町	
	島根県	中国山地県境市町村連絡協議会	
	高知県	中土佐町	
	鹿児島県	宮之城町	
平成12年度	宮城県	登米町	
	山梨県	身延町・身延駅前しょに通り商業協同組合	
	岐阜県	明宝村	
	京都府	日吉町	
	宮崎県	西米良村	
平成13年度	新潟県	越後田舎体験推進協議会	東頸郡
	山梨県	早川町	
	島根県	石見町	
	大分県	久住町	

受賞団体位置図





平成3~28年度 過疎地域自立活性化優良事例表彰

全国過疎地域自立促進連盟会長賞 受賞団体一覧 (平成11年度までは、全国過疎地域活性化連盟会長賞)

年度	都道府県	団体名	市町村等名
平成3年度	青森県	市浦村	
	長野県	株式会社小川の庄	小川村
	愛知県	足助町緑の村協会	
	三重県	飯高町	
	徳島県	井川町	
平成4年度	岩手県	山形村	
	山梨県	小菅村	
	岐阜県	白川町	
	愛媛県	松野町	
	熊本県	泉村	
平成5年度	青森県	稻垣村	
	岩手県	住田町	
	富山県	山田村	
	香川県	池田町	
	長崎県	新魚目町	
平成6年度	北海道	サンセット王国	羽幌町
	北海道	鹿追町	
	宮城県	鶩沢町	
	長野県	開田村	
	石川県	吉野谷村	
	熊本県	清和村	
平成7年度	福島県	檜枝岐村	
	石川県	中島町	
	長野県	南信濃村	
	岡山県	美甘村	
	長崎県	長崎大島醸造株式会社	大島町
平成8年度	北海道	生田原町	
	滋賀県	朽木村	
	島根県	西ノ島町	
	長崎県	鷹島町	
	沖縄県	上野村	
平成9年度	秋田県	岩城町	
	茨城県	美和村	
	石川県	柳田村	
	岐阜県	馬瀬村	
	鹿児島県	里村	
平成10年度	北海道	新冠町	
	岩手県	大東町	
	千葉県	和田町	
	岡山県	加茂川町	
	長崎県	高島町	
平成11年度	北海道	丸瀬布町	
	秋田県	大森町	
	三重県	宮川村	
	大分県	直入町	
平成12年度	北海道	歴史を生かしたまちづくりネットワーク推進協議会	江差町、上ノ国町、松前町
	石川県	白峰村	
	山口県	豊田町	
	徳島県	日和佐町	
平成13年度	石川県	珠洲市	
	鳥取県	株式会社まちづくり日野	日野町
	広島県	作木村	
	熊本県	菅地域振興会	矢部町
平成14年度	北海道	浜益小劇場	浜益村
	静岡県	妻良観光協会及び子浦観光協会	南伊豆町
	和歌山県	美山村	
	広島県	永野を考える会	神石町
	愛媛県	河辺村	
	沖縄県	南大東村	

年度	都道府県	団体名	市町村等名
平成15年度	北海道	常呂カーリング協会	常呂町
	宮城県	食の博物館実行委員会	加美町
	鳥取県	日南町	
	広島県	NPO法人 INE OASA	大朝町
	徳島県	勝浦町	
平成16年度	秋田県	西木村	
	山形県	尾花沢市	
	鳥取県	佐治村	
	大分県	豊後高田商工会議所	豊後高田市
平成17年度	青森県	NPO法人グリーンエネルギー青森	鰺ヶ沢町
	京都府	久美浜百珍の会	京丹後市
	島根県	日南川交流会	邑南町
	愛媛県	宮窪水産研究会	今治市
平成18年度	奈良県	曾爾村	
	山口県	大潮地区活性化推進協議会	周南市
	高知県	土佐れいほく農業協同組合	土佐町
	宮崎県	串間市笠祇地区	
	鹿児島県	山ヶ野金山文化財保護活用実行委員会	霧島市
平成19年度	北海道	標津町	
	島根県	武良づくり企画実行委員会	隱岐の島町
	福岡県	添田町観光ガイドボランティア	添田町
平成20年度	青森県	津軽鉄道サポートースクラブ	五所川原市
	長野県	株式会社 まちづくり木曾福島	木曾町
	大分県	株式会社 夢のぼり工房	杵築市
平成21年度	長野県	栄村	
	徳島県	美郷商工会	吉野川市
	沖縄県	ぐすぐべグリーンツーリズムさるかの会合同会社	宮古島市
平成22年度	長野県	財団法人 妻籠を愛する会	南木曽町
	岐阜県	社会福祉法人 高山市社会福祉協議会	高山市
平成23年度	北海道	素敵な過疎づくり 株式会社	厚沢部町
	島根県	株式会社 萩の会	益田市
	宮崎県	戸川地区石垣の村管理組合	日之影町
平成24年度	北海道	鹿追町	
	宮城県	NPO法人 ひっぽUIターンネット	丸森町
	愛知県	豊根村	
	広島県	生桑振興会	安芸高田市
平成25年度	福島県	会津山都そば協会	喜多方市
	岐阜県	特定非営利活動法人 奥矢作森林塾	恵那市
	長崎県	雪浦ウイーク実行委員会	西海市
	長崎県	若松ふるさと塾	新上五島町
	熊本県	寄ろ会みなまた	水俣市
	鹿児島県	一般社団法人 なかわり生姜山農園	西之表市
平成26年度	三重県	ビジョン早田実行委員会	尾鷲市
	徳島県	もんてこい丹生谷運営委員会	那賀町
平成27年度	福島県	一般社団法人 IORI俱乐部	三島町
	広島県	田幸ふるさとランチグループ	三次市
	香川県	五名活性化協議会	東かがわ市
	鹿児島県	大野地区公民館	垂水市
平成28年度	長野県	特定非営利活動法人 ふるさと	長野市
	静岡県	特定非営利活動法人 がんばらまいか佐久間	浜松市
	奈良県	特定非営利活動法人 うちのの館	五條市
	和歌山县	真田いこい茶屋	九度山町

